

救急隊待機、出動時に医師同行 松波病院で試験運用 羽島郡消防本部と連携

羽島郡広域連合消防本部は、松波総合病院（笠松町田代）と共同で、同本部の救急隊が病院に待機し、救急出動時に医師が同行する病院派遣型の救急ワークステーションの試験運用を始めた。医療を行うまでの時間を短縮し、救命率を高めることが狙い。来年度の本

格運用を目指す。心肺停止から10分間がたつと脳機能の回復が絶望的となるため、1秒でも早い処置が要求される救急医療。医師が救急隊に同行することで、出動先や搬送中でも、高度な気道確保や点滴など医師の指示が必要な特定行為を迅速に行えるようにな

り、患者の後遺症の低減などが期待される。試験運用では月に数回、午前8時30分から午後5時30分まで、同院救急医療センターに同本部の救急車と救急救命士や救急隊員計3人が待機。出動範囲は笠松、岐南の2町で、重症患者の場合、同本部の連絡を受けて出動



医師を伴う救急出動に備え、病院に待機する救急隊員ら
＝笠松町田代、松波総合病院

する。平時は隊員が同センターで搬送後の患者の観察などを行い、技術や知識の向上を図る。八川雄図センター長は「病院と救急隊の連携が円滑になり、医療の質を高めることにつながる」と期待を示し、同本部の小崎智明警防課長補佐は「現場では難しい判断が求められる。同行する医師の存在は心強い」と話した。（亀山大樹）